

平成29年3月16日
平成28年度 第3回川崎市地域自立支援協議会全体会議報告資料

精神障害者地域移行・地域定着支援部会

精神障害者地域移行・地域定着支援事業の経過

国では「病院から地域へ」というスローガンを掲げて精神科医療と福祉施策を実施し、社会的入院を解消に向け進めてきた。

平成14年度 「社会的入院患者について、10年で7万人の社会復帰を目指す」（厚労省）

平成15年度 「精神障害者退院促進支援事業」を開始。（厚労省）

平成16年度 『川崎市退院促進支援事業』を開始。

関係機関連携のために自立促進支援協議会（現「精神障害者地域移行・地域定着支援協議会」）を設置。川崎市生活訓練支援センター・カシオペアが事業主体となる。

平成24年度 地域相談支援として「地域移行支援」と「地域定着支援」が障害者自立支援法での個別給付となる。（厚労省）

平成26年度 「川崎市精神障害者地域移行・地域定着支援体制整備事業」へ変更。

平成28年度 中部リハビリテーションセンターの開設による事業実施体制の変更。

精神障害者地域移行・地域定着支援の 現状と課題は？

現 状

- 中部リハビリテーションセンターの開設による事業実施体制の変更。
- 地域移行支援を行う事業所が一部の事業所に限られている。
- 個別給付の件数が増えない。

課 題

- 医療・福祉関係機関との支援方法の共有化
- ピアサポーターとの共同による地域移行支援
- 地域移行支援のモニタリング体制
- 地域移行支援の見える化
・ 支援対象者（入院者）の把握
・ 地域の状況の理解

平成28年度 第1回川崎市地域自立支援協議会全体会議資料

今後の方向性

<方向性>

H27年度まで開催されていた精神障害者地域移行・地域定着支援協議会を、平成28年度から**川崎市地域自立支援協議会部会「精神障害者地域移行・地域定着支援部会」（仮）として設置**する。

変更点

- 名称・位置づけの変更
- **課題の解決に向けた取り組みを行うプロセスがより明確となる。**
- 基本的な構成員は変更しないものの、事務局に変更あり→カシオペアに替わり「井田地域生活支援センターはるかぜ」、精神保健福祉センター体制整備担当、基幹相談支援センターが加わる。

<変更の目的>

これまでの取り組みや構築されたネットワークを基に、それらを継続しつつ、**精神障害者の地域移行・地域定着支援に関する各種課題について、多様な関係者による具体的な取り組みをより一層推進**することを目的とする。

構成メンバー

- 当事者（ピアサポーター）
- 医療機関（対象6 精神科病院）
- 各区相談支援センター（代表）
- 保健福祉センター（精神担当7 区代表）
- 障害者センター（井田・百合丘）、南部地域支援室
- 生活保護自立支援室
- グループホーム（代表）
- 宿泊型自立訓練施設桜の風もみの木ユニット

平成28年度 第1回川崎市地域自立支援協議会全体会議資料

平成28年度
川崎市地域自立支援協議会精神障害者地域移行・
地域定着支援部会 計 画 書

活動目的	長期にわたり入院している精神障害者の地域生活への移行および定着支援の体制を充実させる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療・福祉関係機関との支援方法の共有化 ② ピアサポーターとの共同による地域移行支援 ③ 地域移行支援のモニタリング体制 ④ 地域移行支援の見える化 <ul style="list-style-type: none"> ・支援対象者の把握 ・地域状況の理解
長期目標 (H28～H29年度)	支援のすそ野を広げよう！
短期目標 (H28年度)	<ul style="list-style-type: none"> ① 支援を進める上での下地を作る。 ② 支援の対象者を共有し、その数を把握する。

平成28年度 第2回川崎市地域自立支援協議会全体会議資料

支援のすそ野を広げるために

● H28年度 見える化作業

★地域移行支援対象者数の把握

➡ 病院アンケート調査

★支援実績と課題把握

➡ 障害者相談支援センター等への
アンケート調査

● H29年度 見える化作業を受けての目標設定

平成28年度 第2回川崎市地域自立支援協議会全体会議資料

第1回～第3回

- ★第1回 6月15日（水）午前 第4庁舎会議室
テーマ 課題の抽出、年度目標の検討
出席者数 30人（構成員、事務局員他）
- ★第2回 8月17日（水）午前 第4庁舎会議室
テーマ 課題の抽出、年度目標の検討
出席者数 22人（構成員、事務局員他）
- ★第3回 10月19日（水）午前 中部リハセンター会議室
テーマ 支援対象者、実績・課題アンケート調査について
出席者数 32人（構成員、事務局員他）

平成28年度 第2回川崎市地域自立支援協議会全体会議資料

第4回～第5回

- ★第4回 12月21日（水）午前
テーマ 見える化作業の調査結果について
地域の退院支援について知ろう
出席者数 29人（構成員、事務局員他）
- ★第5回 2月15日（水）午前
テーマ 28年度の見える化作業分析と29年度目標について
出席者数 33人（構成員、事務局員他）

見える化作業の結果－1

1 地域移行支援対象者数の把握

★ 地域移行支援対象者数が明確に

市内5病院 → 70人

😊 医療・地域関係機関の連携した取り組みを!

※地域移行支援対象者とは、受け入れ条件が整えば退院可能な患者さん（572人）の中で、専門部会で共有された2項目（①SOSが出せる、②服薬、通院ができる）を満たす患者さん

見える化作業の結果－2

2 支援実績と課題把握

★ 地域移行支援実績(H28年度上半期)

障害者相談支援センター等 → 39人

★ 支援課題

●地域移行・地域定着支援の推進

- ・病院、地域関係機関の顔の見える関係づくり、・役割分担、・意見交換の場の設定、
- ・顔が見えると依頼しやすい、・院内外プログラムの参加、共同実施

●人材育成、研修、バックアップ体制

- ・地域移行のノウハウの研修会や事例に即した勉強会の開催
- ・バックアップ体制があれば、支援依頼があっても受けやすい
- ・個別給付申請を具体的に学べる機会を作る

●居住資源の充実、普及啓発

- ・地域の受け入れ先、単身アパートやGHが少ない、・退院先の選択肢があれば、増えていく
- ・地域の理解を深めるため、まずは不動産屋さんへ地域移行の取り組みをしてもらおう。
- ・病院や区役所職員への事業の説明、普及啓発

研修会の開催結果

★第1回 H28年12月19日（月）

講演：「精神障害者地域移行・地域定着支援のすそ野を拡げるために
～東京都の実践から学ぶ～」

講師：金川 洋輔氏（地域生活支援センターサポートセンターきぬた 相談支援専門員）

参加人数：46人

★第2回 H29年1月26日（木）

その1 講演：「精神障害者地域移行・地域定着支援～横浜市の退サポを学ぶ～」
講師：村山 哲史氏（横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター 相談支援専門員）

その2 事例報告：「相談支援センターからの事例報告」
報告者：岩田 和可氏（あさお基幹相談支援センター 臨床心理士）

参加人数：43人

H29年度

川崎市地域自立支援協議会精神障害者地域移行・ 地域定着支援部会 計画書（案）

活動目的	長期にわたり入院している精神障害者の地域生活への移行および定着支援の体制を充実させる。
課題	① 医療・福祉関係機関との支援方法の共有化 ② ピアサポーターとの共同による地域移行支援 ③ 地域移行支援のモニタリング体制 ④ 地域移行支援の見える化（H28年度実施済み） ・支援対象者の把握 ・地域状況の理解
長期目標 （H28～H29年度）	支援のすそ野を拡げよう！
短期目標 （H29年度）	① 地域移行・地域定着支援体制の拡充 ② 人材育成の充実（研修会、事例検討会、バックアップ体制の充実）

H29年度 目標達成に向けた専門部会活動

★ **開催日数 年6回**

★ **構成メンバー**

- 当事者（ピアサポーター）
- 障害者センター（井田・百合丘）、南部地域支援室
- 医療機関（対象6精神科病院）
- 生活保護自立支援室
- 各区相談支援センター（代表）
- グループホーム（代表）
- 保健福祉センター（精神担当7区代表）
- 宿泊型自立訓練施設桜の風もみの木ユニット

★ **取り組み内容**

ワーキンググループの設置等により、下記の3項目に取り組み

- 地域移行・地域定着支援体制の拡充 - 顔の見える関係づくり
- 人材育成（研修会及び事例検討会、バックアップ体制の充実）
- 居住資源の充実、普及啓発

H29年度専門部会について

川崎市地域自立支援協議会

川崎市地域自立支援協議会精神障害者地域移行・地域定着支援部会

- ① 地域移行・地域定着支援体制の拡充
連携強化・居住資源充実・普及啓発
- ② 人材育成の充実
研修会、事例検討会、バックアップ体制の充実

ワーキング
グループ

ワーキング
グループ

ワーキング
グループ

取組内容ごとに、ワーキンググループで検討（部会と同日開催・共有）